

MTS Japan Newsletter

Vol. 37 February, 2015

CONTENTS

役員選挙結果のお知らせ	1
MTS日本支部新役員あいさつ	1-2
「好機到来—MTS日本支部25周年を振り返って—」酒匂敏次前支部長	3
連載コーナー「温故知新」No.1 (山野澄雄(株)フグロジャパン社長)	3
What's New? ①「しんかい6500」の功績にMTSより表彰	4
②2015年MTSスカラシッププログラム公募開始	4
③MTS日本支部25周年記念誌ダウンロードのお知らせ	4
国際会議情報	5

MTS日本支部新役員あいさつ

役員選挙結果のお知らせ

MTS日本支部は、昨年秋の創立25周年記念誌の発行を区切りとして、これまでの活動の継続と、さらなる活発な運営を目的に、規約にもとづき支部役員改選を実施しました。

支部役員候補者は酒匂支部長を委員長とする Nominating Committee により選定し、これに基づき、2015年1月、会員全員を対象にメール投票方式で選挙を行いました。なお、選挙管理委員長は、酒匂支部長の指名により宮崎副支部長が務め、投票用紙の作成および投票結果の管理について、厳正に実施いたしました。

選挙は、MTS本部に昨年の段階で登録されている会員数43名を対象として実施し、すべて信任となり(投票率39.5%)、新支部役員が選出されました。

その結果、支部長は酒匂敏次氏から鈴木英之氏、副支部長は宮崎武晃氏から中原裕幸氏、セクレタリは中原裕幸氏から許正憲氏、トレジャラは高川真一氏から藤田勇氏へととなり、新たな布陣となりました。(執筆：宮崎武晃)

鈴木英之 支部長

酒匂支部長の後を継いで支部長に就任しました。東京大学大学院新領域創成科学研究科の鈴木英之です。本支部は海洋技術に関わる技術者、科学者、法律家、経済専門家、学生、関連分野で活動する人を会員として、海洋の技術に関する理解を深め、会員の仕事や活動の助けとなるとともに、一般社会の啓蒙を活動目標としています。

東京大学大学院新領域創成科学研究科 海洋技術環境学専攻 教授

1959年大阪生まれ、78年都立青山高校卒業、82年東京大学工学部船舶工学科卒業、84年同修士課程修了、87年同博士課程修了(工学博士)、87年東京大学工学部専任講師、88~89年までカリフォルニア大学バークレー校客員研究員、91年東京大学工学部助教授、2003年同教授、08年東京大学大学院新領域創成科学研究科教授。専門分野は浮体構造物、水中線状構造物、構造物の制御、海洋空間利用、海洋再生可能エネルギー利用システム。米国機械学会の海洋極地工学部門の拡大理事會理事などを務める。



今後の本会の活動は、すでに活動の柱として定着している、米国開催のOCEANSに合わせて、視察団を組んで実施している現地視察会は継続し、さらにアジア、ヨーロッパで開催される

OCEANS および、海洋

技術の一大分野であり MTS が主要な主催メンバーでもある海洋石油・天然ガス開発技術に関する OTC についても、執行委員会メンバーが参加し、本部との連携をより密にしたいと考えています。また、水中ロボット競技会の支援を継続するとともに、国内企業・研究所の見学会、海外研究者の招聘講演会など会員のメリットとなる企画を随時実施するとともに、2018年開催に向けて準備、運営に関わっている OCENAS' 18 MTS/IEEE

Kobe/Techno-Ocean2018 については成功につながるように引き続き努めてゆきたいと考えています。また、若手や女性会員を対象とした新しい企画も立ち上げ、支部の活動の活性化を図るとともに、MTS 会員であることの魅力を高めることにより、会員数の拡大も行ってゆきたいと考えています。

中原裕幸 副支部長

1948年3月東京生まれ。上智大学外国語学部卒。72年に海洋産業研究会に入り、主任研究員、事務局長・研究部長を経て、94年より常務理事。この間、83年に南カリフォルニア大学海洋沿岸研究所で Master of Marine Affairs を取得。同研究所で国際海洋法の父 Arvid Pardo 博士、世界最深部のマリアナ海溝へ潜航したトリエステ号パイロットの Don Walsh 博士他に師事。現在、横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター客員教授、東海大学海洋学部講師、日本海洋政策学会理事・事務局長、日本水路協会理事、テクノオーション・ネットワーク理事。2001年に MTS フェロー。なお、10-13年度に(独)海洋研究開発機構の監事を務めた。



私は、1988年の日本支部創立以来、初代の岡村健二氏、第二代の小林和男氏、そして前支部長の酒匂敏次氏の三代の支部長にシクレタリとして仕えてきましたが、このたび副支部長となりました。鈴木英之・

新支部長のもとで、新たな MTS 日本支部の創生に向けて、あとひと踏ん張りしようと考えています。幸い、長くタッグを組んできた酒匂・直前支部長は執行委員会 (EC) のレギュラーメンバーですし、宮崎・高川の両旧役員も新体制の下でも大いに力を貸していただけるものと思います。

MTS の良いところは、何といても海洋に関する国際ネットワーク造りに非常に役立つ数少ない場であることです。米国では石油メジャーとその裾野産業や海洋機器・システム関係の産業界、世界的に有名な大学と研究機関、そして NOAA・USCG・US Navy などの行政関係等を幅広くカバーしています。OTC や OCEANS 国際会議等も含め、MTS を活用して、我が国海洋コミュニティにとっての国際的な輪を広げていきましょう。

許 正憲 セクレタリ

独立行政法人海洋研究開発機構 地球深部探査センター 技術部長
1960年2月台湾生まれ。78年都立三鷹高校卒業。82年東京農工大学工学部生産機械工学科卒業、84年同大学工学部機械システム工学専攻修士課程修了、94年同大学工学部機械システム工学専攻博士課程修了(博士(工学))。86年海洋科学技術センター(現海洋研究開発機構)入所。98年から99年までカリフォルニア大学サンディエゴ校スクリッップス海洋研究所客員研究員。2005年から14年まで東京大学生産技術研究所客員教授。深海工学を専門としており、「しんかい 6500」、「かいこう」、「ちきゅう」の開発などに参画。



私が初めて(プライベートも含め)北米大陸を訪れたのが1988年のOTC調査団でした。すべての見聞が新鮮で刺激的でこの旅で収集した情報のメモはレポー

ト用紙1冊以上もあったと記憶しています(今の私からは想像もつかない?)。その後も OCEANS への論文投稿は心がけており、そこで出会った研究者とはとても懇意にしている方も多く、こういった経験が今の私の礎となっていると強く感じています。

MTS は一般の学会とは異なり、産官学からの幅広い分野の専門家が参加し、国際的ネットワークの中で情報交換できることが特徴のひとつです。また、スカラーシップ、インターンシップなど若手育成プログラムも充実しています。

今回、シクレタリの拝命を受け、このような特徴を日本支部へも展開できるよう MTS 本部との連携をいっそう深め、会員のみなさまが MTS に入会してよかったと思っていただけるようなシンポジウム・イベント企画、情報発信を心がけ、MTS 日本支部の活動を盛り上げていきたいと思っております。どうぞよろしく願います。

藤田 勇 トレジャー

独立行政法人港湾空港技術研究所 新技術研究開発領域長
1965年7月生まれ。静岡県出身。東京大学工学部機械工学科卒業。1990年に住友電気工業(株)に入社、光ファイバの融着接続技術に関する研究開発を行う。1994年に東京大学大学院博士課程に進学。吸収式冷凍機内の物質伝達に関する研究で博士(工学)を取得。1999年に運輸省港湾技術研究所(現在の(独)港湾空港技術研究所)に入所。2014年より新技術研究開発領域長。現在の専門は油濁対策研究で、海上流出油の防除に関する技術開発や、流出油の漂流シミュレーション技術などを手がける。



この度、トレジャーを拝命致しました藤田と申します。昨年カナダのセントジョーンズで開催された

OCEANS' 14 のバンケットの会場で、中原・シクレタリ(当時)から、

エクゼクティブコミッティ (EC) のお話を頂きました。以前から拡大 EC として MTS 日本支部に関係していたこと、何よりお酒が入っていて気が大きくなっていたせいか、「はい、頑張ります」と気軽に回答してしまったのですが、後から考えると、身に余る重責に、はたして自分に務まるかしらと、正直不安な気持ちでもありますが、鈴木・新支部長を始め、中原・副支部長、許・シクレタリのご指導を仰ぎ、会員の皆様の声を真摯に聞きながら、微力ながら務めさせていただきます。

私の所属する PARI でもそうですが、ここ数年、わが国では海洋エネルギーや海洋資源の研究開発が活況を呈しています。こうした時流の中で、MTS 日本支部の存在意義と可能性は非常に大きいのではないかと感じるころです。皆様何卒宜しくお願い致します。

—MTS 日本支部 25 周年を振り返って—
好機到来
 MTS 日本支部前支部長 酒匂 敏次

21 世紀の幕あけから 15 年、ようやく日本も世界も MTS も、そろって海の恩恵に浴する事業に本格的に取り組む準備が整ってきたようだ。日本支部の新執行部発足にとっても良いタイミングであることは間違いない。17 年前、私が代表を受けたときには、会員構成者の多くが支部発足時の記憶を共有する世代に所属していたのにくらべ、現在は、その後に参加された新世代のメンバーが多数となり、改めて会の理念と目標を再点検するよい機会を迎えていると、いいのではなかろうか？ MTS 本体は、この間順調に成長して、世界の海洋科学技術コミュニティを束ねるリーダーとしても頼もしい存在になり、活動の幅を広げるとともに、global outreach を目標の一つに掲げて、熱心に取り組んでいる。日本はもともと海洋科学技術のほとんど全分野にわたる人材に恵まれ、それぞれの分野で、研究会や学会等を組織して、会員相互の親睦と切磋琢磨の機会を設けてきたという点では、断然世界の最先進国と、いい存在なのだが、そのことも一因になって、分野横断的、あるいは国外にも目を向けた組織、発想、協力という点では後れを取ってきた面があるのは否めない。MTS は、北米中心の組織ではあるのだが、日本が、この分野で、学際的、国際的ネットワークを広げていくには、最良のパートナーではないかと考えている。幸い国もグローバル人材などという表現を使って、日本の科学技術の今後の方向性を模索し始めているこの時に、新執行部を盛り立てて、国内のみならず海外に向かって、連帯と協働を進める力のある組織を目指して、日本支部が発展していくことを期待したい。

—連載コーナー「温故知新」No.1—
**海洋開発は矢張遣り甲斐のある
 ビジネスのテーマだと思う**
 (株)フグロジャパン代表取締役社長 山野澄雄

海洋開発ビジネス 曙の時代

私は 1970 年に住友商事に入りました。何をやりたいかと上司から聞かれたので躊躇うことなく海洋開発と答えました。当時、海洋開発は宇宙開発と原子力産業と共に未来産業とみなされており、商社マンとして遣り甲斐があると思ったからです。当時幾つもの海洋開発専門会社が設立され、海洋開発の未来は洋々たるものと思えました。それから 45 年、色々

ありましたが、まさか今日に至るまで私が海洋開発に関係するとは思っていませんでした。然し一方では 45 年前、当時の海洋開発の社内外の先輩諸氏と熱く語った幾つかの海洋開発の課題は依然、海洋開発の今日的問題のまま残っている気がします。

自分にとっては深海鉱業プロジェクトが一番楽しく勉強にもなった

振り返ると本当に色々な海洋開発ビジネスに関与させて戴いたけども、矢張 1970 年代にシアトルで米、加、西独、日本の 4 企業が作った深海底マンガン団塊開発のジョイント・ベンチャー OMI で 4 年余り朝から晩まで深海鉱業漬けで仕事をしたことが一番楽しく勉強にもなったと思います。今でも本当に素晴らしい方々と出会えたことを嬉しく思っています。

海洋開発は日本にとって大事だと思う

1980 年代以降海洋開発ビジネスは低調になったと思います。しかしその後、海洋基本法、海洋基本計画等も整備される等、日本の海洋開発ビジネス環境も整備されつつあり、今後数年間は特に面白い時代であると思えます。

MTS 日本支部のこと

MTS 日本支部は 1988 年に創設されたのです。MTS は酒匂敏次先生（3 代目の MTS 日本支部長）が岡村健二追悼集（平成元年 12 月、非売品、岡村さんは MTS 日本支部の初代支部長）の中でも述べておられるように海洋についての科学技術から政治経済、教育文化に至る幅広い活動をしており、小生も MTS 日本支部の活動を通して多くの方と知合い、情報を得ることができたと、素晴らしいことだと思っています。MTS 日本支部の関係の役員の皆様のご努力に心から感謝しています。今後の更なる発展を期待しています。



筆者が参画した OMI 国際ジョイント・ベンチャーのマンガン団塊探鉱船、SEDCO0445（三井造船建造）1978 年、南太平洋で 1,000 トンのマンガン団塊を採鉱した。

— What's NEW? —①

「しんかい 6500」の功績を
MTS より表彰

米国 New Orleans にて毎年開催される Underwater Intervention (UI2015 は 2/10~2/12 開催) では、多くの海洋関連メーカーによる展示の他に、ROV、AUV などの Track にわかれて Technical Session が行われており、技術的なトピックや最近の動静などに関する発表が行われています。これら Track のひとつに Manned Submersibles があり、MTS の Manned Underwater Vehicles Committee (29 個ある MTS 専門部会のひとつ) の重要なイベントとして、同部会に所属するメンバー、有人潜水船に関するメーカーやオペレーターを中心に米国内外から毎年多くの発表が集まり、活発な議論の場となっています。

日本からは JAMSTEC 海洋工学センターの元パイロットである川間技術副主幹が参加、有人潜水調査船「しんかい 6500」の就航 25 周年を記念して、「しんかい 6500」の歴史を振り返りつつ日本の有人潜水調査船史を紹介する発表を行いました。その発表の後、同部会 Chair で Track Leader の William Kohnen 氏から、「しんかい 6500」の今までの功績



を称え、25 周年をお祝いするレター (下左図) と記念品 (上図) が贈られました。これは発表者である川間氏にも事前には知らされておらず、嬉しいサプライズとなりました。

— What's NEW? —②

2015 年 MTS スカラーシップ
プログラム公募開始

MTS では海洋工学、海洋科学、海洋技術開発分野で勉強する高校生、大学生、大学院生を支援することを目的に MTS スカラーシッププログラムを運営しており、2015 年のプログラムの公募が開始されました。応募資格は MTS 学生会員 (年会費 \$25.00) であることです。支援額は \$1,000 から \$8,000 までで、申し込み締め切りは 2015 年 4 月 20 日です。

プログラムの詳細については

<http://www.mtsociety.org/education/scholarships.aspx>

学生会員の加入については

<http://www.mtsociety.org/education/scholarships.aspx>

をご参照ください。

質問・相談等ありましたら、誌面最後尾の連絡先へ遠慮なくお問い合わせください。

— What's NEW? —③

日本支部 25 周年記念誌ダウンロード可能に : MTS 本部 HP でも紹介

MTS 日本支部 25 周年記念誌が発行され、次の URL よりダウンロードできるようになりました。
(<http://www.rioe.or.jp/>) トップ画面右上のオレンジ色ボックス「MTS Japan Section 25th Anniversary」をクリックするだけです。



Marine Technology Society
Manned Underwater Vehicles Committee

February 10, 2015

Dear Mr. Kawama,

On behalf of the Marine Technology Society, the Manned Underwater Vehicles Committee and the Underwater Intervention Symposium, it is with great pleasure that we honor the significant contributions to oceanographic research and exploration that JAMSTEC's *Shinkai 6500* manned research submersible has given to our global community. We also wish to recognize Japan's visionary leadership in ocean exploration that dates back to the *Kuroshio 1* in 1951 and the family of submersibles that followed: *Yomiuri*, *Shinkai*, *Shinkai 2000*, which all led to the *Shinkai 6500*. Since the first mission in 1989, *Shinkai 6500*'s achievements have included numerous dives in the Pacific Ocean, Atlantic Ocean and Indian Ocean along with detailed missions around the seas of Japan. In addition, *Shinkai 6500*'s comprehensive mission portfolio has encompassed research in seafloor topography and geology, identification of deep-sea organisms, sampling and research on hydrothermal systems and other scientific contributions. *Shinkai 6500*, the pilots and team have helped foster a greater understanding of the complex and dynamic environment of deep oceans.

As JAMSTEC continues to take a lead in manned exploration the community at large will continue to watch this stellar program. The innovation and discovery from expeditions with the *Shinkai 6500* create unique value for Japan and the world.

With congratulations and admiration from the entire MUV community.

Sincerely,

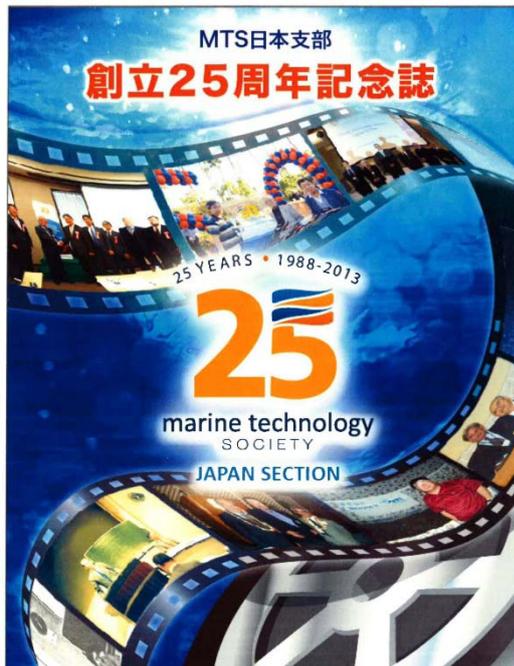
William Kohnen
Chair, Manned Underwater Vehicles
Marine Technology Society



marine technology
SOCIETY
Opportunity turns deep

mtsvet.org

MTS 本部ホームページでもトップ画面と MTS Books のコーナーで掲載されており、全世界に向けて紹介されています。ぜひ、ご一読下さい。



== 目次 ==

序：四半世紀、牛歩？ 疾駆？ (MTS 日本支部長 酒匂敏次)	1
Drew Michel・MTS 会長からの祝いメッセージ	3
History of MTS Japan Section	4
(Presented at 25th Anniversary Special Seminar on February 3rd, 2014)	
海洋科学技術の最近 25 年間の推移 Timeline of Marine Science and Technology	10
～ MTS 日本支部の歩みとともに～	
[年表] MTS 日本支部 25 年の歩み	14
同 (英文)	16
OCEANS 国際会議視察団の参加者数の推移 (2000-2013)	18
[寄稿] 我が国における水中ロボット競技会の進展と将来への展望	19
(特定非営利活動法人日本水中ロボネット理事 有馬 正和)	
[寄稿] テクノオーシャンと OCEANS 国際会議のかかわり	27
(テクノオーシャン・ネットワーク (TON) 事務局)	
<付>MTS とテクノオーシャン・ネットワーク	31
記憶に残るイベント	33
～20 周年記念講演会・見学会および東日本大震災特別セミナー～ (MTS 日本支部副支部長 宮崎武晃)	
MTS Japan Newsletter Back Number(Collection of Front Page)	37
No. 1 (1988 年 9 月)～No. 35 (2013 年 12 月)	

国際会議情報

- Arctic Technology Conference
March 23-25
Copenhagen, DENMARK
- US Hydro Conference
March 16-19
National Harbor, MD, USA
- Ocean Business
April 14-16
Southampton, UK
- Offshore Technology Conference (OTC)
May 4-7
Houston, TX, USA
- OCEANS Genova Conference
May 18-21
Genova, ITALY
- Oceans In Action
August
Biloxi, MS, USA
- Dynamic Positioning Conference
Oct. 14-15
Houston, TX, USA
- OCEANS Washington DC Conference (*)
Oct. 19-22
Washington, DC, USA
- OTC – Brasil
Oct. 27-29
Rio de Janeiro, BRAZIL
- Subsea Leak Detection Symposium
November
Houston, TX, USA

* 視察団を編成する予定です。

編集メモ

新体制発足に伴って、本 Newsletter も衣替えをし、スタイルや内容を一新してお届けすることにいたしました。連載コーナー「温故知新」では若い世代への継承を目的にパイオニアの方々に登場いただき、初回には、古くから MTS に関わってきておられました、(株)フログジャパンの山野社長に執筆をお願いしましたところ快諾いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。本連載も含めて、今後は、会員等からの投稿も歓迎したいと考えています。ご協力のほどよろしくお願い致します。(許)

MTS では、アメリカにおける海洋科学技術、政策、産業に関する最新情報や研究助成、学生奨学金などの情報を提供しており、国際的なネットワーク形成に非常に有用で、特典として OCEANS 国際会議の参加登録料も会員価格になります。是非、入会をお願いいたします。

MTS 本部の website

<https://www.mtsociety.org/home.aspx>

MTS 会員登録関係

<https://www.mtsociety.org/membership/new/add.aspx>

MTS 日本支部連絡事務所 (c/o(一社)海洋産業研究会内) Tel: (03) 3581-8777 Fax: 81-3-3581-8787 E-mail: mts@rio.or.jp
Nanba-Bldg., 1-19-4, Nishi-Shinbashi, Minato-ku, Tokyo 105-0003 Japan